

三つ柏

— MI TSU KASHIWA NO.31 —

令和元年12月6日発行

今度は、国語の問題に挑戦してみませんか

令和元年度 全国学力・学習状況調査の問題から

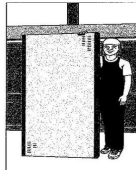


3

岸さんは、町の広報紙に取り上げられていた量職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報紙の記事」を「直接聞いてみたいこと」「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「広報紙の記事」

わが町の達人 ～第25回～
「部屋の床に畳をびたりとおさめる量職人」



店主の大谷進さんは、十八歳のころに地元で畳店を営む親方のもとへ弟子入りし、三十歳で自分の店をもった。代々受け継がれてきた畳作りの伝統の技を五十年間守り続けている。
部屋の床にすぎ間も段差もなくびたりとおさめる畳を作らせた。大谷さんの右に出る者がいない。通常、部屋に畳をおさめるときにはわずかな段差などが出るため、その場で調整することが多い。しかし、大谷さんの手にかかれば、そのような調整を一切せずにびたりとおさめることができる。
「私にとって、畳はとても魅力的なものです。だから、五十年間も職人を続けることができたのです」と大谷さんは話す。

大谷さんの仕上げた畳

「直接聞いてみたいこと」

・大谷さんはどのような思いや考えをもって、たたみ職人を五十年間続けてきたのだろうか。

・大谷さんが話しているたたみのみりよくとは何だろうか。

「インタビューの様子」

岸さん 大谷さんが達人として紹介されている、町の広報紙の記事を読みました。今日は、大谷さんの仕事への思いや考えなどをお聞きしたいと思います。よろしくお願います。

大谷さん こちらこそ、よろしくお願います。

岸さん では、早速ですが、広報紙で大谷さんは、「私にとって、畳はとてもみりよくてきなものです」とおっしゃっていましたよね。どのようなところにみりよくがあると思われますか。

大谷さん 私の店の畳について言えば、全て一点物だということです。私は、機械を使わずに、細部までくふうして一枚ずつ手作業で仕上げています。ですから、完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっての一番のみりよくですかね。

岸さん そうなのですね。それはつまり、

ア

大谷さん そうです。部屋の大きさに合わせたり、お客様の希望や要望に応えたりするのは、職人としての腕の見せどころですからね。

岸さん 職人としての腕をみかくために、どのようなことを親方から教わったのですか。

大谷さん 親方から直接教わったことはほとんどありません。

岸さん では、どのようにして腕をみかけたのですか。

大谷さん 畳を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。岸さん 大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたんですね。大谷さん いやいや、見るだけでは身につけられません。「習うより慣れよ」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すのです。私はとても不器用なので大変さはありましたが、何とか親方のようになりたいと思いながら、修業をしていました。

岸さん そのような思いをもっていただけですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん 思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん すみません。では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にしていたことや心構えはありますか。

大谷さん そうですね。五十年も職人をしてきましたが、いまだに完ぺきだと思える仕上げはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしていたことですかね。

岸さん お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、

イ

またぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

一「インタビューの様子」の「ア」で、岸さんは、自分の理解が正しいかどうかを確認しようと思いい、質問をしています。その質問として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 十八歳から五十年間も、量職人という仕事を続けることができたということでしょうか。

2 機械を使って一度にたくさん作るのと、より多くの人が使うことができるということでしょうか。

3 最近作られた畳の中で、特にくふうして仕上げたものにはどのようなものがあるのでしょうか。

4 細部までいいいに手作業で作るので、一枚も同じものはないということでしょうか。

二「インタビューの様子」の「イ」で、岸さんは、部のようにくふうして質問をしています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 相手の思いをさらに引き出すために、相手がかくり返し発言した言葉を用いながら質問をしている。

2 相手に質問をする理由を理解してもらえようように、インタビューの目的を伝えてから質問をしている。

3 相手が答えやすいように、自分が知りたいことについて言葉をかえてもう一度質問をしている。

4 相手の話の中に分らない言葉があったため、その言葉の意味を確かめる質問をしている。

友だちの発表を聞き、考えを重ねる力を…

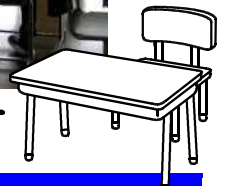
解けましたか？(③の一の答えは「4」、二の答えは「3」です)

前回の算数同様、6年生が4月に行った全国学力・学習状況調査の問題の一部です。似たような問題ですが、一の問題は文の要約(直前にある大谷さんの話をまとめる)の問題、二の問題は言い換え(二つ前の岸さんの質問を言い換える)問題です。正答率は、全国平均、県平均ともに一が高く二が低い結果でしたが、本校の結果は逆。二の方が高く、全国平均、県平均を上回っていました(残念ながら、一は平均に達しませんでした)。

どちらも前後の文をしっかりと読み取ると答えにたどり着く問題で、読解力が必要です。これは、一朝一夕で身に付くものではありません。普段から読書に親しむことや、授業の中で、「私は〇〇さんの考えと似ていて、…」や「私は〇〇さんの考えと違って、…」など、友だちの発表をよく聞き、発表内容を自分なりにまとめ、それと自分の考えを比べて発表することを積み重ねていくことが大切です。

先日、79の国・地域の15歳を対象に行った学習到達度調査(PISA)の結果が公表され、日本は「読解力」の順位が大きく低下したとの報道がありました。問題をしてみると、これからの読解力は、単に文を読み取り一つの答えにたどり着く力だけでなく、文を読んで「どう思ったか」「文のどこからそのように思ったのか」を答える力も大切になってくるようです。お子さんが本を読み終わったとき、ときには「どう思った?」「どうしてそう思った?」と聞いてみてください(いつもやると本を読むのが嫌になるので「たまに」「気軽に」聞いてみてください)。学校でも、しっかりと読解力が子どもたちに身に付くよう、頑張っていきます。

12月4日(水)には、4～6年生が県の学習状況調査に取り組みました。取り組んだ国語、算数、理科、社会(5・6年)の問題は、全国学力・学習状況調査の問題同様、文章をしっかりと読まないといけない問題です。頭をフル回転させて、最後まで「粘り強く」しっかりと取り組んでくれたことでしょう。



「出会い」から学ぶ①

地域ではたらく人に学ぶ

2年生
まちたんけん

2年生が生活科の授業の一環として、白岩地区の二つの仕事場に訪問しました。二つのグループに分かれて、11月28日(木)には郵便局へ、翌日の29日(金)には保育園にそれぞれ訪問し、いろいろなことをインタビューしたり、体験してきました。

郵便局には、3人の子どもたちが訪問し、局長さんから郵便局の仕事や局内にある様々な機械のこと、はがきにある七つのはこの



ひみつ(郵便番号を書く欄のことです)などを詳しく聞くことができました。

保育園に行った4人は、園長さんからお話を聞いた後、エプロンを着て小さい子どものめんどろをみたり、発表会練習の手伝いをしたり、保育士さんの仕事をちょっとだけ体験してきました。分かったことや考えたことは大きな模造紙にまとめ、1・3年生の前で発表するそうです。楽しみです。